

## 板橋区文化芸術振興基本計画 2020 の主な成果と進捗状況

板橋区文化芸術振興基本計画2020（平成28年3月策定）では、「歴史や伝統を大切にしながら、多様な文化芸術活動が活発に行われ、楽しみ、つなぎ、創造するまち」の実現に向けて、4つの施策の柱、11の基本施策のもとに55の計画事業を進めています。また基本施策のうち3つを重点目標として特に力を入れて取り組んでいます。施策の柱ごとに、令和元年度までの進捗状況を紹介します。

### 施策の柱 1 文化芸術の風おこし

「個性あふれる文化芸術の創造」「文化芸術へいざなう機会の充実」「文化芸術活動を行う場の充実」「文化芸術活動の発表の機会の充実」の4つの基本施策を推進しています。特に、「個性あふれる文化芸術の創造」を重点目標として取り組んでいます（網掛けは重点目標に資する取り組みです）。

#### 「自然と歴史と文化の里・赤塚」における文化芸術事業の推進

板橋十景の一つ赤塚溜池公園周辺の一角を占める美術館と郷土資料館では、「自然と歴史と文化の里・赤塚」として多様な展示事業等を実施しています。令和元年度には両館合わせて28の展示等事業を実施し、観覧者数延6万人を超える来館者でにぎわう見込みです。

美術館は令和元年6月に大規模改修工事を完了し、リニューアルオープン・開館40周年記念「2019 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」では、観覧者数10,558人を記録しました。また令和2年1月には郷土資料館の展示再整備を完了し、3月には周辺駅からの屋外案内標識を一新するなど、周辺施設の回遊を促す赤塚地域スタンプラリー事業やシェアサイクルの開始と相まって、東京2020大会を契機としたさらなる魅力発信に取り組んでいます。



◆リニューアルオープンした板橋区立美術館

#### 「文化芸術月間」の事業展開

10月・11月を「文化芸術月間」として文化芸術事業を集中的に展開し、にぎわいを創出しています。

特に、2か月間にわたり繰り広げられる区民文化祭は、板橋の地域文化のかがやきを象徴するものです。区民文化祭の知名度向上と参加者・観覧者増加をめざし、平成28年度から文化会館で前夜祭を開催しています（平成30年度出演・観覧者数1,022人、令和元年度出演・観覧者数1,143人）。

前夜祭では、文化団体連合会に加盟する団体が集結し、子どもから大人まで、板橋の地域文化を楽しむことができる催しを披露しています。また、東京2020大会の公認プログラムとしても実施しており、今後さらに魅力を発信していきます。



◆区民文化祭・前夜祭の様子

#### 絵本文化の発信・醸成

ボローニャ国際絵本原画展に代表される絵本関連の美術館展覧会、図書館でのボローニャ・ブックフェアの開催、また令和2年度に移転し、新たに開館する区立中央図書館にはボローニャ子ども絵本館を併設するなど、「絵本のまち板橋」として、世界の絵本の魅力を発信します。

その他にも区の基本構想や各種計画書の表紙のほか、結婚記念カードや育児パッケージ目録などにおいて「絵本のまち板橋」をイメージさせるデザインを取り入れるなど、絵本文化の醸成・発信に取り組んでいます。



◆ボローニャ・ブックフェアの様子

#### 海外の姉妹・友好都市との文化交流

海外の姉妹・友好都市が他区に比べて多い特徴を活かし、文化交流に取り組んでいます。令和元年度はバーリントン市との姉妹都市提携30周年記念事業を実施し、公式訪問団による相互訪問や様々なイベント等を通じて、相互理解と交流を深めました。記念事業として「青少年ホームステイツアー」や、区役所1階イベントスクエアでの展示のほか、区役所内レストランでのカナダ・バーリントン市をイメージした日替わりメニュー提供などを実施しました。

今後、東京2020大会開催に向けて、海外の姉妹・友好都市との連携を図り、さらなる国際交流を推進していきます。



◆バーリントン市姉妹都市提携30周年記念  
（板橋区伝統工芸品「手描友禅」の贈呈）

### 施策の柱 2 歴史文化の記憶つむぎ

「伝統文化の継承」「文化財の保存と活用」の2つの基本施策を推進しています。特に「伝統文化の継承」を重点目標として取り組んでいます（網掛けは重点目標に資する取り組みです）。

#### 初夏・秋の日本庭園等

水車公園内の日本庭園・茶室「徳水亭」において、初夏は華道、秋は茶道を主とした講習会・華道展・茶会・屋外コンサート等を開催しているほか、夏休みには子ども華道・茶道体験講座を開催するなど、日本古来の文化に親しむ機会を提供しています。このほか、区民文化祭では茶会・いけ花展をはじめ、俳句や書道、百人一首、珠算などにおいて、子どもたちへの文化継承に取り組んでいます。



◆こども華道・茶道体験講座の様子

#### 歴史的価値ある建造物等の継承

江戸時代中期に建てられた「旧粕谷家住宅」は、平成28年1月から解体・復元工事を開始し、平成30年1月に完成しました。工事過程において、享保8年（1723年）の墨書銘が発見され建立年代が確定し、関東地方では最古級に属する古民家として文化財的価値が明らかとなりました。この結果を受け、建立時の姿を再現し、平成30年3月には東京都指定有形文化財に指定となりました。

現在、区民に一般開放しており、地域の歴史や文化を伝承する体験施設として、並びに、区内の郷土芸能・伝統工芸の披露の場として、講座や見学会など新たな事業を検討していきます。また、板橋区加賀に広がっていた板橋火柴製造所は、官営工場の日本最古の工場であり、その跡地において、近代化・産業遺産を保存・活用する都内初の史跡公園の整備を計画しています。完成すれば、文化振興、観光振興における新たなシンボルとして期待されます。



◆旧粕谷家住宅外観の様子



◆板橋区史跡公園（仮称）のイメージ図



施策の柱3 文化芸術の人そだて

「次代の文化芸術を創造する人材の育成」「文化芸術を育てる担い手の育成」の2つの基本施策を推進しています。

アウトリーチ事業の推進

小中学校や福祉施設において文化芸術にふれる機会を提供するため、文化・国際交流財団ではアウトリーチ事業を実施しています。  
文化・国際交流財団が毎年実施している新進音楽家オーディションに合格された方々を中心に結成されてきた板橋区演奏家協会や、板橋区混声合唱団、板橋落語会などの協力のもと、平成29年度は20か所（うち小学校11校）観客数2,734人、平成30年度は21か所（うち小学校11校）観客数3,845人と順調に事業拡大を図っています。  
アウトリーチ事業は、文化芸術に関わる人材発掘に寄与するとともに、文化団体の活動成果の発表や団体情報の発信などの役割も担っています。



◆小学校でのアウトリーチ事業の様子

ひよこ・たぬきアトリエ

3才〜小学生とその保護者を対象に、親子で楽しく造形あそびを行うワークショップを実施しています。絵本作家・アーティスト・デザイナーなど様々なジャンルで活躍する講師陣が魅力です。次代の文化芸術の担い手であるこどもたちが芸術家と接することは貴重な経験であり、感性を刺激する事業となっています。  
平成29年度は全12回参加者数356人、平成30年度は美術館大規模改修の影響により全6回参加者数175人の実績となっています。



◆ひよこ・たぬきアトリエの様子

施策の柱4 文化芸術の土づくり

「多様な文化芸術情報の収集と発信」「文化芸術活動を支える財政支援の充実」「文化芸術振興の推進体制の充実」の3つの基本施策を推進しています。特に、「多様な文化芸術情報の収集と発信」を重点目標として取り組んでいます（網掛けは重点目標に資する取り組みです）。

文化・国際交流財団情報誌「ふれあい」の改善

文化・国際交流財団が隔月で発行している文化芸術情報誌「ふれあい」の紙面構成を平成29年度から一新し、財団と文化会館指定管理者が協力して、見やすく魅力的な情報発信に取り組んでいます。  
また、財団・文化会館指定管理者ともにSNSでも積極的に情報を発信しています。多様な文化芸術情報を手軽に入手できるよう、引き続き効果的な情報発信の方法を研究し、改善に努めていきます。



◆財団情報誌「ふれあい」



令和元年度・令和2年度（計画最終年度）における計画事業の進捗状況（見込み）

めざす 将来像	施策の柱	基本施策	進捗状況				
			達成	順調	維持	停滞	合計
歴史や伝統を大切にしながら、多様な文化芸術活動が 活発に行われ、楽しみ、つなぎ、創造するまち	文化芸術の 風おこし	個性あふれる文化芸術の創造	0 (6)	5 (0)	1 (0)	0 (0)	6 (6)
		文化芸術へいざなう機会の充実	0 (8)	7 (0)	1 (0)	0 (0)	8 (8)
		文化芸術活動を行う場の充実	0 (3)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (3)
		文化芸術活動の発表の機会の充実	0 (5)	4 (0)	1 (0)	0 (0)	5 (5)
	歴史文化の 記憶つむぎ	伝統文化の継承	0 (9)	9 (0)	0 (0)	1 (1)	10 (10)
		文化財の保存と活用	1 (6)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)
	文化芸術の 人そだて	次代の文化芸術を創造する人材の育成	0 (7)	7 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)
		文化芸術を育てる担い手の育成	0 (3)	3 (0)	0 (0)	1 (1)	4 (4)
	文化芸術の 土づくり	多様な文化芸術情報の収集と発信	0 (3)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)
		文化芸術活動を支える財政支援の充実	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
		文化芸術振興の推進体制の充実	0 (2)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
合計			1 (53)	48 (0)	4 (0)	2 (2)	55(55)

※基本施策のうち網掛けは重点目標

※数値は令和元年度、（ ）内は令和2年度進捗状況見込み

「達成」：計画どおり、または計画より早く進捗し、目標を達成している

「順調」：目標の達成に向け順調に進捗しており、事業継続により目標達成が見込める

「維持」：必ずしも上向き傾向ではないが、事業継続により目標達成が期待できる

「停滞」：目標に対して進展していない

評価指標における進捗状況

評価指標	計画策定時	現状値	目標値
文化会館の施設稼働率（大ホール・小ホール）	64.1% (平成26年度)	69.1% (平成30年度)	70.0%
過去1年の間に文化芸術にふれた区民の割合	—	79.9% (令和元年度)	100.0%
区の伝統芸能における認知度	37.3% (平成26年度)	31.9% (令和元年度)	50.0%
文化芸術振興イベント参加者数	236,331人 (平成26年度)	231,080人 (平成30年度)	250,000人

※文化芸術振興イベント参加者数は、「文化芸術月間」の事業展開、サムライ文化と芸術の世界、アウトリーチ事業の推進の3計画事業における参加者数の合計

- 文化会館大ホール・小ホールの稼働率は、平成29年度実績で72.8%と目標値を達成し、過去最高を記録しました。平成30年度では69.1%と目標値を切りましたが、計画策定時以降高い水準を保っており、一定の成果を上げています。
- 過去1年の間に文化芸術にふれた区民の割合は、隔年で実施している区民意識意向調査の結果であり、令和元年度調査では79.9%となっております。文化芸術にふれる機会の創出に一定の成果を上げています。
- 文化芸術振興イベント参加者数の平成30年度実績は、美術館が大規模改修により展示・イベントが制限された状況で、参加者数は現状を概ね維持しています。
- 今後は文化会館の老朽化対策と併せて、地域文化の創造支援と国際交流の推進を担う文化・国際交流財団が指定管理者として文化会館の管理運営を担えるよう改革を進めていくことが主な課題として挙げられます。